

カウンターパート研修を実施しました。

昨年末、カンボジア側カウンターパート8名（新生児医療・ケアに携わる医師3名・看護師3名、行政官2名）を対象に、「新生児ケアと病院管理」をテーマに研修(約2週間)を日本で実施しました。

研修概要

1. 国立国際医療研究センター病院、長野県立こども病院の新生児集中治療室、小児科におけるハイリスク児フォローアップ外来視察
2. 院内感染予防管理についての講義
3. 医療機材メンテナンス・管理についての講義
4. 長野県における母子保健行政の実際に関する講義（行政官のみ対象）
5. 第61回日本新生児成育医学会・学術集会出席（研修生の一人が演題発表）

研修の成果として、研修生8名が研修後に実践する様々なアクション・プランを立てました。新生児ケアそのものの改善はもちろん、とくに、免疫力が弱い新生児を守るための院内感染予防、新生児治療室退院後のフォローアップに関するアクション・プランも下記のようなポイントが挙げられました。研修後にこれらのアクションが現場で実践されているか、今後プロジェクトでモニタリングをしていく予定です。また、この場を借りて本研修の開催・実施にご協力頂き、支えてくださった関係者の皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

新生児ケア

- 新生児室の医師・看護師とともに毎朝の回診を始める。回診後は、新生児室スタッフ内でミーティングを行い、新生児の状態について情報共有や意見交換を行う。
- 当直看護師の交代、申し送り時に紙面でのバイタルサインデータの共有だけではなく、口頭で新生児の状態、重篤新生児に関する注意点などの申し送りを充実させる。看護師同士のコミュニケーションをより促進する。

院内感染予防

- 院内の感染予防管理チームと協働をして院内感染予防チェックリストを作成し、同チームの承認を得る。3～6か月に一回、チェックリストを用いて院内感染予防対策の実施状況をモニタリングする。
- 所属部署のスタッフと会議をひらき、自身が手洗い・手指消毒のデモンストレーションを行う。その後、スタッフに手洗い・手指消毒の現状の方法を実際に見せてもらい、自身がチェックを行い改善点を指摘する。新生児治療室で新生児の面倒を見ている親・親族に対しても新生児との接触時、授乳前にはかならず手指消毒を行うように指導してもらう。
- 保育器の洗浄をより丁寧に行う。自分たちで外せるパーツは分解して消毒、乾燥を行う。

新生児フォローアップ

- 未熟児が新生児室を退院した後も、状態や発達をモニタリングする。火曜と木曜の朝を診察日とし、診察を続ける。
- 保健センタースタッフを対象にした両親学級に関する研修を企画する。



長野県立こども病院新生児集中治療室視察の様子



行政官2名の長野県庁への訪問の様子



長野県立こども病院前で研修生8名と研修に随行した林業務調整員で記念撮影

プロジェクトロゴが完成しました。

はじめにデザインの原案をいくつか作成し、第1回合同調整委員会（JCC会議、詳細は第3号プロジェクトニュースレターを参照。）で人気投票を行い、得票を最も集めた原画デザインをなるべく損なわないように現地デザイン会社と話し合いながら・・・長らく時間がかかりましたがようやくロゴが完成しました。このロゴがプロジェクト関係者の間で定着するように願っています。

原案のデザインをしてくださったのは、カンボジアで母子保健事業を実施しているNGOでインターンをされていた助産師の佐々美保さんです。6パターンもの手書きの原画を提案してくださいました。佐々さん、本当にありがとうございました！

完成ロゴ

カラー版



白黒版



家族とカンボジアで親しまれている花“フランジパニ”に囲まれ、カンボジアの伝統的な生活布である“クロマー”にくるまれ、健やかに眠る赤ちゃんを中心に据えたロゴにしました。このような赤ちゃんやご家族の方々が増えますように・・・。

短期専門家短信

今年1～2月にかけて、スバイリエン州病院での出生直後の新生児ケア（Immediate Newborn Care :INC - 出生後最初の90分間で新生児に行うケアで、EENCの重要な要素。）の実施状況をはかる調査を行いました。短期専門家が州病院の分娩室に張り付き、チェックリストに基づき48例の分娩を観察、分析しました。すでに調査が実施されたコンポンチャム州での結果と合わせて、今回の調査結果はプロジェクト終了時の成果をはかるための重要なベースラインデータとなります。活動を終えた短期専門家からの短信です。

「小児科医はお産を知らない」

木多村知美 短期専門家

（小児科医／国立国際医療研究センター国際医療協力局客員研究員）

2017年1-2月、プロジェクトのベースライン調査の一環で、スバイリエン州立病院分娩室で、出生直後の新生児ケアの実情を調べる観察研究を行った。

赤ちゃんが生まれ、最も死亡率の高い生後24時間を乗り切る為には、産婦人科・小児科スタッフ双方が分娩前後の状況を知っておく必要がある。分娩前に行われるお母さんへのケアは赤ちゃんの生まれてくる状況に影響を与え、分娩後お母さんと赤ちゃんが一緒に行うケアは、赤ちゃんの生存に関わるからである。今回の研究では、分娩前から産後90分までのケアを90項目に分け、細かく観察を行った。その結果、分娩時の会陰切開や吸引分娩の頻度、早期母児接触、母乳育児支援がどの位行われているのか明らかになった。今回の結果はプロジェクト活動の参考とされ、お母さんと赤ちゃんへのケアの改善が目指される予定である。

言い古されているように、小児科医はお産を知らず、産婦人科医は新生児を知らないのかもしれない。お母さんと赤ちゃんの笑顔を守る為には、産婦人科スタッフと小児科スタッフがお互いの異なる知識・技術・視点を用いて、補い合い、継続的に母子を支える事が必要と感じている。